

## 「染方史郎の楽しく覚え好きになる感じる細菌学×抗菌薬」訂正のお知らせ

ご購入いただきました「染方史郎の楽しく覚え好きになる感じる細菌学×抗菌薬」(2020年2月発行 第1刷、第2刷、第3刷)におきまして、以下の誤りがございました。ここに訂正させていただくとともに深くお詫び申し上げます。

2021年3月9日

### 正誤表

※(●)印:肺炎マイコプラズマ(*Mycoplasma pneumoniae*)を「通性細胞内増殖菌」(宿主の細胞内で増殖する菌で、特に人工培地でも増殖可能なもの)と記載していますが、*M. pneumoniae*は細胞内増殖菌ではありません

刷	頁		誤	正
第1刷 第2刷	27頁	下から1行目 (●)	前者の代表として、 <del>肺炎マイコプラズマ(<i>Mycoplasma pneumoniae</i>)</del> とレジオネラ・ニューモフィラ( <i>Legionella pneumophila</i> )	前者の代表としてレジオネラ・ニューモフィラ( <i>Legionella pneumophila</i> )
第1刷 第2刷	28頁	図7 右下	<del>空気がないと 生きられない</del> (発酵する)	<del>空気がなくても 生きられる</del> (発酵する)
第1刷 第2刷	39頁	下から6行目	<del>個体</del> 培地があります。	<del>固体</del> 培地があります。
第1刷 第2刷 第3刷	43頁	ちょっと横道 下から3~2行目	POCT(Point of Care <del>Treatment</del> )	POCT(Point of Care <del>Testing</del> )

刷	頁		誤	正
第1刷 第2刷	93頁	図7 タイトル	血球成分の <b>文化</b>	血球成分の <b>分化</b>
第1刷 第2刷	94頁	12～13行目	eosinは酸性の <b>物質を染める</b> 色素	eosinは酸性の色素
第1刷 第2刷	116頁	上から6行目 (●)	<b><i>M. pneumoniae</i></b> 、 <i>L. pneumophila</i> は通性細胞内増殖菌(人工培地でも培養可能),	<i>L. pneumophila</i> は通性細胞内増殖菌(人工培地でも培養可能),
第1刷	136頁	図7	penicillin	penicillin
第1刷	153頁	図1 右側	<b>呼</b> 気時に	<b>吸</b> 気時に
第1刷	160頁	ページ中段 囲み内 1行目	凝集付着性大腸菌	<b>腸管</b> 凝集付着性大腸菌 <b>※赤字を追加</b>

刷	頁		誤	正
第1刷 第2刷	179頁	4～6行目	<u>このようにNAGビブリオはもともとO1ではない<i>V. cholerae</i> O</u> <u>ことを指していましたが、現在はコレラ毒素をもたない<i>V. cholerae</i></u> <u>の意味で用いられるようになっていきます。</u>	(削除)
第1刷 第2刷	179頁	9行目	<i>cholerae</i> のみをコレラ菌とよんでいます。	<i>cholerae</i> のみをコレラ菌とよんでいます。したがって、コレラ毒素をもたないO1や O139は、NAGビブリオと同程度に扱われています。 ※赤字の追加
第1刷 第2刷	179頁	表2 コレラ毒素の行 NAGビブリオの列	<u>なし</u>	ほとんどは非産生
第1刷 第2刷	179頁	表2 血清型の行 NAGビブリオの列	<u>すべて</u>	非O1
第1刷	259頁	2 尿素呼気試験 1行目	<u>数時間</u> 後に呼気中の	30分後に呼気中の
第1刷 第2刷	260頁	「ちょっと横道」 下から4行目	ピロリ菌は <u>胃の萎縮に関係していますが、除菌をすると食道がんの発生</u> <u>が上昇することが報告されています。</u>	ピロリ菌は <u>萎縮性胃炎の発生に関与しており、食道がんのリスクが下がるという報告</u> <u>があります。</u>

刷	頁		誤	正
第1刷 第2刷	274頁	下から5行目 (●)	<u>すべて細胞内増殖性ではありませんが、<i>Mycoplasma pneumoniae</i>や <i>Legionella pneumophila</i>は人工培地での培養も可能です。</u>	本項で解説する細菌のうち、 <i>Mycoplasma pneumoniae</i> を除き細胞内増殖性ですが、 <i>Legionella pneumophila</i> は人工培地での培養も可能です。
第1刷 第2刷	275頁	第2章-10(非定型 菌)の見出し (●)	A <b>通性細胞内増殖菌</b> A-a <i>Mycoplasma pneumoniae</i> (肺炎マイコプラズマ) A-b <i>Legionella pneumophila</i> B 偏性細胞内増殖菌	A <b>マイコプラズマおよびレジオネラ</b> A-a <i>Mycoplasma pneumoniae</i> (肺炎マイコプラズマ) A-b <i>Legionella pneumophila</i> B 偏性細胞内増殖菌
第1刷 第2刷 第3刷	290頁	表1 最左列 下から5行目	<b>テ</b> ジゾリド	<b>テ</b> ジゾリド
第1刷 第2刷 第3刷	298頁	上から2行目	セファゾリン(セファメジン <sup>®</sup> α) cefazolin <del>g</del>	セファゾリン(セファメジン <sup>®</sup> α) cefazolin <b>※赤字を削除</b>
第1刷 第2刷 第3刷	341頁	右段 上から11行目	point of care <b>treatment</b>	point of care <b>testing</b>
第1刷 第2刷	見返し(裏 表紙側)	細菌分類表 (●)	10 非定型菌 A <b>通性細胞内増殖菌</b> a. マイコプラズマ <i>Mycoplasma</i> 属 b. レジオネラ <i>Legionella</i> 属 B 偏性細胞内増殖菌	10 非定型菌 A <b>マイコプラズマおよびレジオネラ</b> a. マイコプラズマ <i>Mycoplasma</i> 属 b. レジオネラ <i>Legionella</i> 属 B 偏性細胞内増殖菌